

## 自立活動 単元名 「からだをうごかそう！」

当学級の児童は、肢体不自由(四肢麻痺)児である。四肢の狭い可動範囲をいかに広げるかということが、身体を動かす活動を通しての目標となる。

まず、身体を動かすことに興味を持たせるために使う音楽は歌詞が面白く、リズムカルなものを選んだ。本学級の児童が心躍る曲はやはり「おかあさんといっしょ」で使われるような単純明快なものがいいと考えた。「バスにのって」「おどるぽんぽこりん」「サンサンたいそう(アンパンマン)」「おしりかじりむし」「にんじゃってなんじゃもんじゃ」などの曲を使った。自宅や施設でテレビを観ている時間が長い子どもたちなので、全曲知っており、のりのりで身体を動かすことができた。また、今年度個学で購入したバランス平均台(スポンジでできているカラフルなかまぼこ)を六角形にし、その上を歩いたり、またいだり、六角形の中で体操をするようにした。車椅子の児童は、普段安全のために足を固定しているがバンドを外し、身体を自由に動かしながらその周りを回ったり、車いすを押す介助者が車いすを回したり、前車輪を持ち上げて揺らしたりした。カラフルなものが好きな子どもたちなので平均台を見るだけで喜び、週に2～3回やっていると、担任のかけ声まで覚え、自分から準備をし活動する姿が見られた。好奇心というのはなかなか難しいが、自分にとって難しい活動でも、やりたいと自ら願って活動することは彼らにとっては大切なことだと考える。

視知覚認知トレーニングも行っている。物事を目で追う力が弱いため、その力を養うトレーニングを取り入れた。こういう児童は通常級にもかなりいるそうだ。養護学校の先生に教えていただき取り入れた。筋トレのようなもので、すぐには効果が現れないが、継続して行うことで効果が得られるとのことだった。5月から続けてきたことで、目で追う対象が自分の興味のあるもの(自分の姿や写真など)だったが、人の目を見ることができるようになり、少し効果が見られているように感じる。今行っているのは、卓球の球ぐらいの大きさの一部が潰れている玉を机の上で担任が転がし、落ちる寸前でプリンカップでキャッチするというものと、画用紙に10までの数字を10色で書き、それを黒板に貼り、担任が言った数字や色に素早くタッチするというものだ。タイムを計り、意欲を高めるようにしている。同時に英語でも行い、飽きないようにしている。



